

資料1-3

G6タンクエリア B1タンク側面フランジ部から内堰内への 水滴下事象について

2016年7月29日

東京電力ホールディングス株式会社

事象(1/2)

1. 事象

G6タンクエリア B1タンク側面フランジ部から内堰内への水滴下事象について

2. 時系列

- 6/26 8:15 タンクパトロール作業員より
G6エリアB1タンク側面フランジ部より内堰内への滴下を発見
5~6滴/1秒。堰内水位4~5cm変化なし。
- 8:16 外堰の排水弁「閉」操作
- 8:29 外堰への漏えいがないことを確認（漏えいは内堰内に留まっている）
- 10:00 当該部からの漏えい水が内堰内に落ちないように養生実施
- 15:00 緊急移送先準備のため、G6-C2~C8の連結弁「開」操作実施
- 15:15 G6-B1 → G6-C8移送準備作業開始
- 20:25 移送作業開始 G6-B1:92.2%
-
- 6/27 0:40 移送作業終了 G6-B1:92.2↓20.6% (約380m³)
漏えい停止確認

事象(2/2)

3. 漏えい水（性状）

- 漏えい水（G6-B1）

全 β : 9.6×10^4 Bq/L

Cs-134 : 1.1×10^2 Bq/L

Cs-137 : 5.9×10^2 Bq/L

- 堰内水

全 β : 4.1×10^3 Bq/L

Cs-134 : 検出限界値未満（検出限界値： 6.8×10^0 Bq/L）

Cs-137 : 1.7×10^1 Bq/L

4. 漏えい量

約72L（現場状況より、6L/時間*12時間）

- 約10分滴下した水を測定したところ約1Lだったため、6L/時間

- 前回パトロール時間が前日の22時なので、止水養生を終えた本日10時までの12時間（当該エリアのタンクは1日4回のパトロールを実施中）

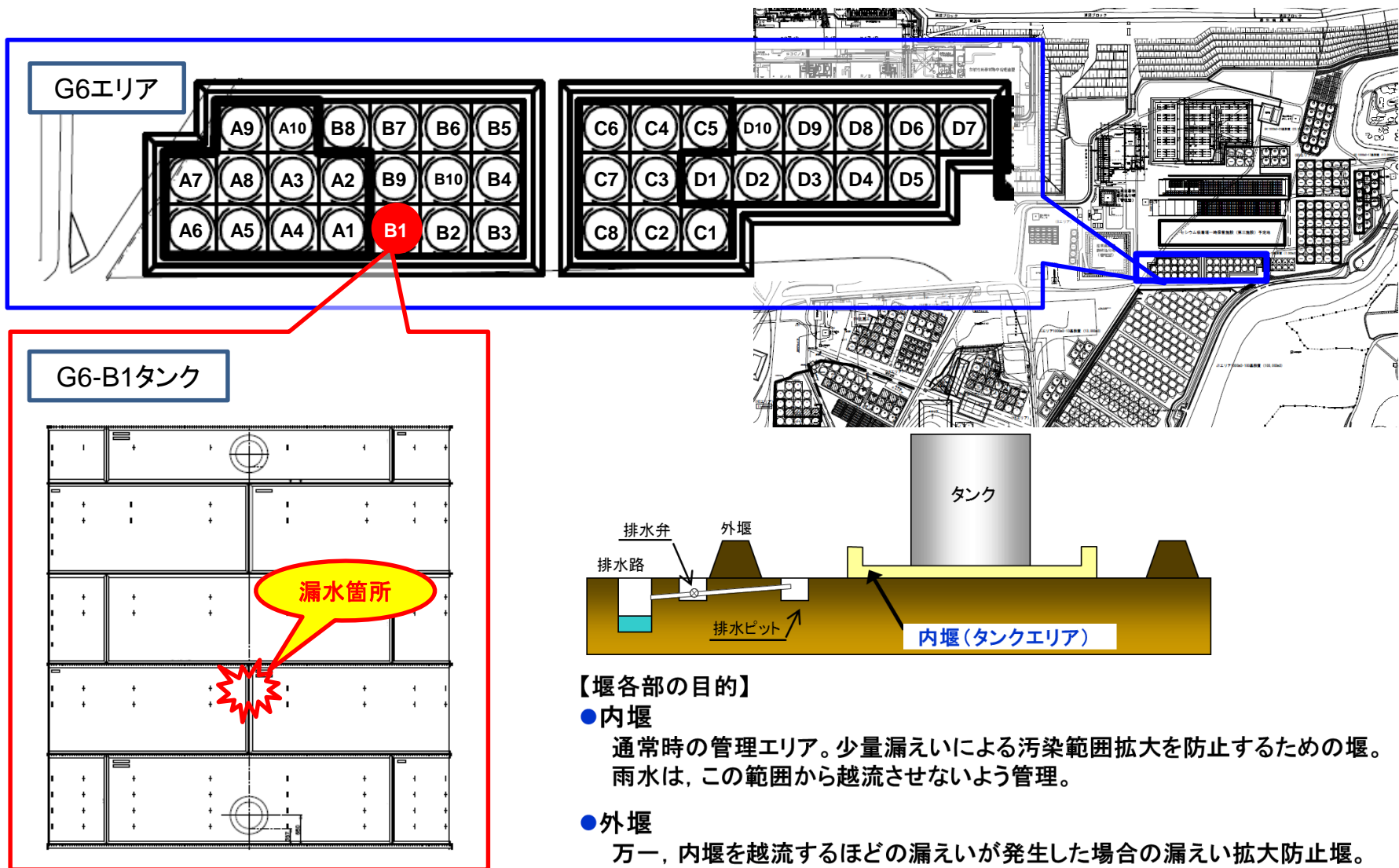
5. 推定原因

- 締結ボルトの緩み、外表面の損傷等はないことから、ガスケットの何らかの不具合と推定

6. 対策

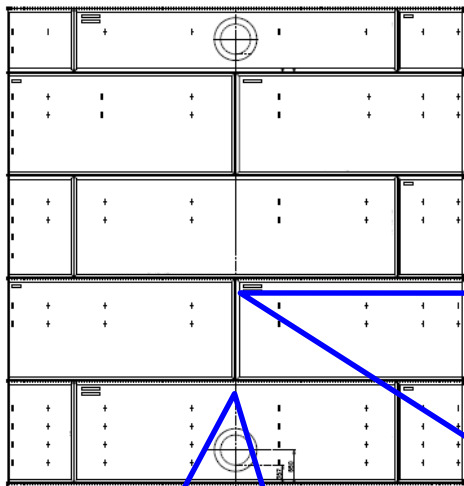
- 当該タンクは今後汚染水の受け入れは実施しないとともに、フランジタンクから溶接タンクの切り替えを継続して進めていく

漏えい箇所



漏えい状況・応急処置

G6-B1タンク



参考：G6-B1タンク使用履歴

5月16日 7時：67.1%（G6-B注ぎ足し前水位）
11時：注ぎ足し開始

5月18日 7時：92.9%（G6-B注ぎ足し後水位）
9時：G6-A受入のため、B1，B9を連結し、
B1，B9を経由しG6-A受入
※G6-A1に受入配管がないため
16時：73.7%（G6-A連結による水位降下）

5月19日16時：92.5%（G6-A注ぎ足し後水位）